

延喜式内社

弓削神社御由緒略記



鎮座地

大阪府八尾市弓削町一丁目三十六番地

(関西線志紀駅から南西約三百米徒歩三分)

社域

四百坪

氏地

八尾市弓削町、志紀町、二俣全地区

氏子戸数

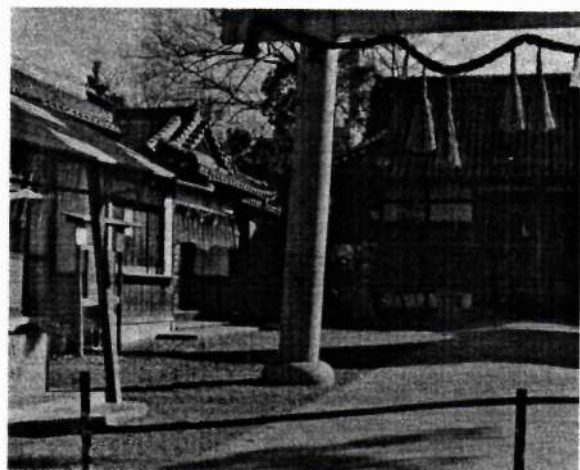
三千戸

祭神

饒速日命

可美麻治命

天照大神



天照大神は我が国の始祖と仰がれ給い、伊勢国五十鈴の川上に鎮座し給う。

饒速日命は天神で天璽あまうかみを奉じて天磐舟に乗りこの国に降り給う。可美麻治命は饒速日命の御子である。

饒速日命は神武天皇御東征前に既に大和河内地方を治めて御東征に偉勲をたて、御子可美麻治命と共に朝廷に仕えて功績をたて、その功績により子孫に物部氏の姓を賜わり、この地方一帯に勢力を張り、守屋の頃には富強をきわめた。一族弓削氏はこの地に栄えて祖神を尊崇して祀ったのが当神社である。弓削の道鏡はこの弓削の一族である。

御祭神については大阪府神社史料弓削神社の條河内誌に「比古佐白布都命」大阪府全誌に「一に布都大明神」とも呼び、大阪府史蹟名所天然記念物の渡会氏神名帳考証に「弥加布都命、比古佐白布都命」特撰神名牒には「高

魂命、天日鷲命」とあり神社叢書、大日本史神祇志、地理志料等には「弓削宿禰神歟或は弓削宿禰祖廟也」とあって諸説があるが、弓削宿禰は物部連の族であるから物部氏の祖神である饒速日命可美麻治命を御祭神として奉斎し、二俣に鎮座の天照大神を合祀して三柱を御祭神と奉斎申上げている。

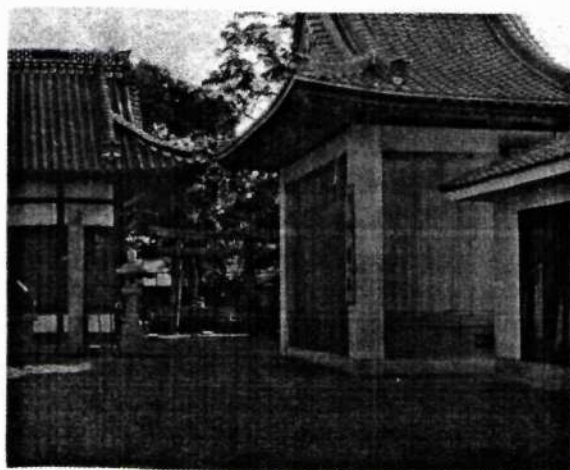
御由緒

当社は今を去る千有余年前に物部氏がこの地に繁栄してその祖神を祀り創建せられ、延喜式内の古社として上下の尊崇あつく、特に延命長寿の神として名高い。

大阪府神社史料弓削神社の條の河内誌、大阪府全志、大阪府史蹟名所天然記念物によると清和天皇貞観元年正月授從五位上とあり、又同上河内誌、大阪府全志、大阪府史蹟名所天然記念物によると醍醐天皇の延喜の制に於て

延喜式内社に列し、並大月並、相嘗、新嘗に予り朝廷から弊帛を供進せられていた。

その後、世の変遷時の流れに従い消長があつたが、明治五年村社となり、大正三年弊帛供進社に指定せられ、八尾市二俣に鎮座の天照大神を合祀し、昭和二十七年宗教法人弓削神社として神社庁に属している。境内には昔から延命水と言う霊泉があり、この水を口にすれば長命すると言ひ伝えられている。



建造物

本殿、拝殿、神樂殿、宝物殿、神輿太鼓庫、明治天皇遙
拝所、菅原神社、琴平神社、稻荷神社、猿田彦神社、社
務所、鳥居、狛犬、水舎、由来碑、社標、延明水。

御祭礼

一月一日

祭旦祭

二月十七日

祈年祭

七月三十、三十一日

夏祭(神輿渡御式)

十月八、九日

秋祭(例祭)

十一月二十三日

新穀感謝祭

その他

一月十四日

左義長とんど

二月三日

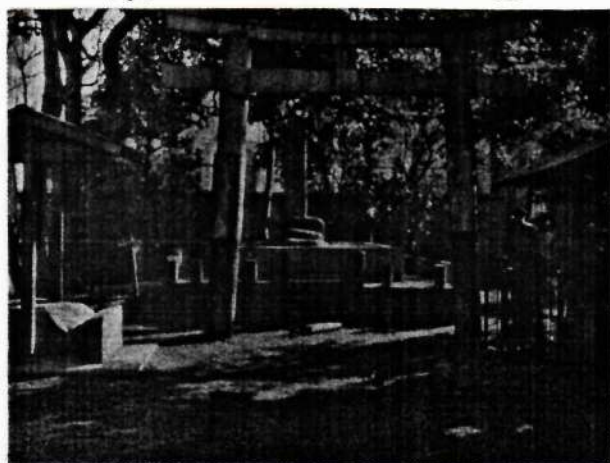
節分の日・節分祭

四月午の日

稻荷祭

十一月十五日

七五三詣り



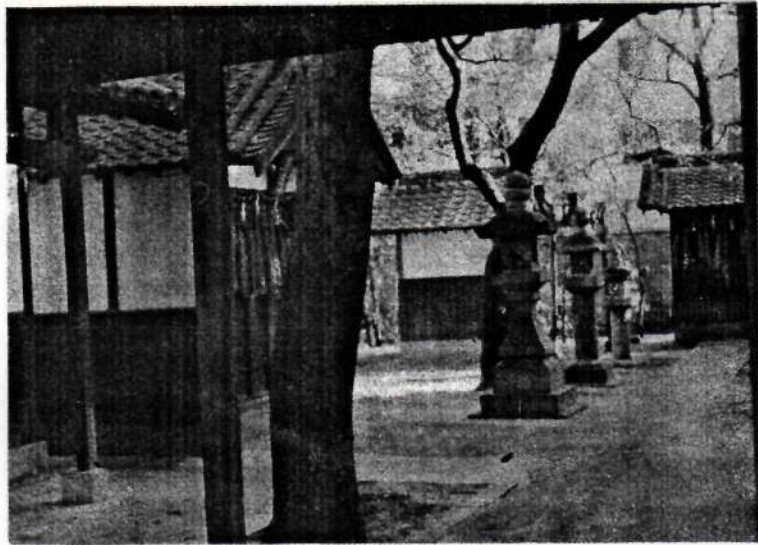
遷宮祭（正遷宮）

二十五年目毎に行う。神殿、建造物の修理、境内の整備を行い、神殿のよそほいを新にして霊代を遷し奉り、全氏子を挙げて一大行事を行い、神威を発揚すると共に、日夜賜わる恩頼みたまのふけを感謝して繁栄を壽ぎ、砂持神事を始め種々の記念行事を行う。昭和四十六年十月に第五十回遷宮祭が盛大に行なわれた。

氏地氏子の概況

弓削二俣地区は旧大和川の流域にあつて、水利の便よく長く農業を主体として繁栄していたが近年国道二十五号線開通により交通の便益を得て発展し、昭和三十七年十月関西線志紀駅の復活と共に急速に発展し、工場住宅の建設相次ぎ面目を一新している。

昭和五十年一月一日



志紀弓削自治会連合会
神社委員会